

河井継之助 越後長岡藩家老。<戊辰戦争>で中立唱えるも官軍に無視され、義に殉じた。

かわいつぐのすけ

日本外史・ ・ 1827 = 長岡城下で、藩の上士の勘定奉行の家に生まれる。

・ ・ ・ ・ ・ 1836 = 9歳 :

大塩平八郎乱 1837 = 10歳 :

阿部正弘首座 1845 = 18歳 :

万次郎帰国・ 1852 = 25歳 : 江戸に遊学し、齋藤拙堂や古賀謹堂に儒学を学ぶ。

ペリー来航・ 1853 = 26歳 :

開国開港・ ・ 1854 = 27歳 :

蕃書調所・ ・ 1857 = 30歳 : 家督を継ぐ。

安政の大獄・ 1859 = 32歳 : 西日本に足をのばして備中松山の山田方谷に師事し、

桜田門外変・ 1860 = 33歳 :

さらに長崎にも遊んで見聞を広め、判断力、行動力ともに独特の強烈さをもつ人格が形成される。

8月18日政変 1863 = 36歳 :

禁門の変・ ・ 1864 = 37歳 : 藩主牧野忠恭にその才を認められて、郡奉行になり、

町奉行、年寄り役を歴任、抜本的な藩政改革に乗り出し、財政再建、富国強兵の実効を上げる。

明治維新・ ・ 1868 = 41歳 :

*家老に栄進。戊辰戦争に際して中立主義をとる特異性を発揮、上京中だった藩主を連れ帰ると同時に外商から最新式の銃砲を大量に購入し、藩兵1000余を藩境に配置。新政府、旧幕のどちらにも荷担しない局外中立を宣言する。むろん新政府軍はこれを認めず攻めこみ、長岡城占領、奪還、再占領の激戦となり、中立主義のために城下町が壊滅するという珍しい戦争のなか、傷を負って、没した。日記「塵壺」がある。